日本キリスト教会　広島長束教会だより

ミニバラ No.45

〒731-0135　広島市安佐南区長束 3-32-16

TEL/FAX
082-238-3459

2014 年 8 月発行

復活に関する問答

「この世の子らはめとったり嫁いだりするが、次の世に入って死者の中から復活するのにふさわしいとされた人々は、めとることも嫁ぐこともしない。この人たちは、…〈中略〉…神の子だからである。」

（ルカによる福音書 20 章 34～36 節）

エルサレムの神殿の境内で毎日教えておられた主イエスのもとにサドカイ派の人々が来て、復活についての論争をしかけてきました。

古代のイスラエル社会では、聖書の教えに従って、ある人が妻をめとり、子がなくて死んだ場合、その弟が兄嫁と結婚して、兄の跡継ぎをもうけるということが広く行われていました。サドカイ派はそこから、七人兄弟がいて、長男が子がないまま死に、次男が長男の妻をめとったがやはり子がないまま死に、三男、四男とくりかえして、七人全部が死んで、最後に七人全部に嫁いだ妻も死んだという話を作りあげました。「すると、復活の時、その女はだれの妻になるのでしょう。」

よくもこんなことを考えついたものですね。ここには、子供がほしくても出来ない夫婦や、若くして死んでしまう人たちの悲しみは一顧だにされていません。確率的にもほとんどありえないことですが、しかし、そこに彼らの用意周到な計算が込められていたのです。

この世では一人の人が同時に複数の異性と結婚することは禁止されています。しかし配偶者が亡くなったあと、別の人と結婚することは許されているわけですね。この例では、女性が死後の世界で、自分と結婚した７人の男性と再び巡り合うことになります。もしもそこで、７人の男性と一緒に結婚生活を送るとしたら、神が到底許されるはずのない破廉恥極まることになります。かといって、彼女がそこから一人の男性を選んで結婚生活をおくるというのも常識外のことです。

ここでサドカイ派は言いたいのです。「もしも復活ということが本当にあるのなら、こんな破廉恥で常識外のことが起こってしまう。神がこんなことを許されるはずがない。従って復活ということはありえない。人は死んだら無に帰るのであって次の世は存在しない。」

皆さんの中で、配偶者と死別して、再婚された方がおられたら、気を悪くしないでお聞き下さい。…ある女性が死んで、生と死を隔てる川、そんなものがあったらですが、そこを渡ったとたん、かつて結婚し、死に別れた二人の男性が花束をもって迎えに来たとしたら…。もうどうして良いかわからなくなりますね。でも、そんなことは金輪際ないのです。

サドカイ派がこんな質問をするのは、彼らが神の力を知らないからです。主イエスは、次の世に入って死者の中から復活するのにふさわしいとされた人々は、めとることも嫁ぐこともない、と言われます。その理由は、「この人たちは、もはや死ぬことがない。復活にあずかる者として、神の子だからである」ということにあります。

死ということに限界づけられた人間に、神は結婚し、子孫を残すという恵みを与えて下さいました。もちろん独身を選んだ人などには、神は別の恵みを与えておられますが。ただこういうことは、死後の世界では事情が全く違ってしまいます。キリストを信じ、神から永遠の命を与えられた人は死ぬことはありません。死は滅ぼされてしまったのです。彼らが住んでいるのは死のない世界ですから、子孫を残して、命を未来につないでゆく必要はありません。そこでは結婚生活ではなく、神の子たちの兄弟姉妹としての新しい交わりが始まります。天使のように死なない命が与えられると共に、その死なない命をもって神に使えることを何よりも喜びとする者たちに、私たちはなるのです。そのことを信じることが出来るなら、サドカイ派が言うようなことは全く問題になりません。

私たちと私たちが愛するすべての人々が、地上の生涯を力いっぱい歩み、その使命を終えたあとは今度は天で、永遠の命を生きる者となることを祈り、求めて行きましょう。

（2014 年 7 月 6 日の礼拝説教より）

牧師　井上　豊